

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 |使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヘルスケアフードファクトリー亀岡(仮称)	階数	地上2F
建設地	京都府亀岡市	構造	S造
用途地域	準工業地域、大井町南部地区 業務Bゾーン	平均居住人員	300 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年6月 予定	評価の実施日	2016年7月14日
敷地面積	26,432 m ²	作成者	中央設備エンジニアリング(株)
建築面積	8,573 m ²	確認日	-
延床面積	15,116 m ²	確認者	-



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 94%

③上記+②以外の 94%

④上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <ol style="list-style-type: none"> 再生利用可能エネルギー利用設備の導入(太陽光パネルの設置) 周辺住宅エリアと計画建物の距離を大きくとり、広大な緑地を確保することに努めた。 建物外壁に取り付けるアルミサッシについてはエアタイトの仕様として熱負荷を抑える仕様としている。 建物の基礎については、地中梁が不要なものを選択して、根切りによる排出土量を抑える計画としている。 	<p>その他</p> <p>-</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>F☆☆☆☆建材の全面的使用や全館禁煙などにより、空気環境に配慮した計画としている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせ対応性・更新性に配慮した計画としている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>外皮の断熱強化、LED照明の採用等により、エネルギー消費量の削減に配慮した計画としている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>自動水栓および省水型機器(節水型便器・擬音装置)を採用により、水資源保護に配慮した計画としている。</p>
<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っており、良好な景観形成に配慮した緑化計画としている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>外皮の断熱強化、LED照明の採用等により、LCCO₂の低減に配慮した計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される